

●特集

め おと  
平成夫婦談義

～ふたりで会話してありますか？～



# わいわい

NO.26

## “特集 平成夫婦談義”

～ふたりで会話していますか？～

〈提言〉 千葉大学教授 天野 正子

波風を立て、時間をかけて  
作りあげる『いい関係』を!

4

結婚している  
若いカップルに聞きました 「結婚を決意した理由は？」

6

〈素敵なパートナー事例集〉

男の転職

転職の中から見つけた  
ふたりの夢

8

共働き夫婦

はりきりすぎないで  
困っていたら一緒に考えていこう

9

夫婦で子育て

ともだち夫婦が  
ともだち家族になった

10

再婚夫婦

夫の温かなまなざしに包まれて

11

定年後の夫婦

カップル・セミナー  
を企画して

12

夫の介護

介護を二人でのりこえて

13

〈専門家からのご意見〉

現代の離婚事情

弁護士 牧野百合子

8

あたたかな愛情が子どもの心をつくる

静岡少年鑑別所長 鈴木理包

10

企業倫理とは、そこに働く人の幸せを祈ること

常葉学園浜松大学助教授 坂本光司

12

★本・だ・な「ふたりで読んでみたい本」

14

★編集後記

15

子どもが自立して  
ふたりだけになった五十代の頃  
自分達の老後と親の介護など、  
社会の問題に目を向けた六十、七十代：  
さまざまなライフステージの中で  
私たちはどんな会話をしてきたのでしょうか。

この号では、  
『平成夫婦談義』  
「ふたりで会話していますか？」  
と題して、素敵なパートナーシップを  
育てているご夫婦を紹介していきます。

家のローンや教育費に  
やりくりをした四十代の頃

どんな子どもに育てようかと  
迷った三十代の頃

二人で一緒にいるだけで  
楽しかった二十代の頃

知っていますか。  
知っていますか。

あなたのパートナーは

どんな時に一番うれしい顔をするか  
知っていますか。



# 波風を立て、時間をかけて じっくりあげると「いい関係」を！

夫婦で共に働き、共に子育てをし、そして、ご自身が単身赴任生活をするなど体験を通してのお話には、非常に説得力がありました。結婚して三十年あまり。夫婦で過ごす時間が多くなり、二人の中に少しづつ見えてきたものを語っていただきました。

千葉大学文学部教授

天野 正子

(編集員感想)

## 人生選択・迷える女性たち

「私の人生、だんないだい！となる  
と、大きな保険かけてくれる人がいい  
よね」

ティー・タイムの本音の出る場で、  
女子学生からこんな声が聞かれます。  
こういう会話を聞くと、女性が自分自  
身で人生を切り開いていく時代になる  
のは、まだまだ先になるのだろうかと思  
う時があります。

もちろん、女子学生のすべてをひと  
くりに捉えることはできません。

最近の女性の結婚観は、非常に多様  
化してきており、大きく分けて三極分  
化しています。一つは、「自分の人生は、  
だんないだい」という層、もう一つは、  
「自分の人生は自分の力で切り開いて  
いく」という層、そして三つめがその  
中間で迷っている層です。

実はこの中間で迷っている層が、こ  
れからの方向にいくのかによって、  
女性の自立の可能性は左右されるで  
しょう。

## 結婚したい男性へ…下宿生活のススメ

一方、男性の結婚観も、男は外、女  
は内という層と、男も女も外と内の両  
方を、という層と二極分化しています。  
どちらかといえば、今なお、伝統的な  
男は外、女は内といった保守的な家族  
像をもつ男性は多いですね。

それは、一方で、職業生活の縛りが  
あるし、今一つ、男としての特権を失  
いたくないということがあるからで  
しょう。

男子学生をみると、母親が息子を真  
綿にくるむように大切に、家事には指  
一本も触れさせないような育て方をし  
ているのがわかります。

たとえば、本場に最近の男子学生は、  
脆く繊細で、まるでガラス細工のよう  
です。セミなど人前で、レポートや論  
文を批判すると、ものすごく落ち込ん  
でしまうので、批判などできません。

その意味で、女性は性別役割分業の被  
害者であると同時に、そうした男性を  
再生産している加害者の側面も持って

いますね。

やはり、男子学生は、自立の第一歩  
として結婚前に一人暮らしをして、自  
分のことは自分でする力を養わないと  
結婚する資格はないのではないでしょ  
うか。

## 小さな波風が夫婦を成長させる

私事ですが、夫は、私が働くことに  
抵抗はなかったようです。夫の母親も  
職業婦人でしたので、男も家事や育児  
に参加すべきという気負いもなく、自  
然にかかわってくれました。

けれども、互いに社会での立場が重  
くなってくると帰宅時間も遅くなり、子  
どもとかかわる時間も少なくなります。  
仕事と家庭の両立を夫婦でどのよう  
にバランスを図っていくか、お互いに  
迷いました。時には多少の波風が立つ  
ようなけんかもしました。

あるとき、夫が、「子どものおむつを  
変えている自分は、研究者として自立  
できないのでは？」と言ったこともあ  
りました。研究者の妻といったら、内

助の功があった時代ですからね。

それをきっかけに「生活と切り離さ  
れた形で成り立つ研究の方がおかし  
いのでは？」など大いに議論しました。

日本人は、和の精神を大切にす  
まり、対立することから生じる緊張感  
に慣れていませんが、ときには対立す  
ることも大切です。

夫婦でわかり合うために、相互が相  
手にもっている期待や疑問をぶつけて  
いくことも大切ですね。相手に怒りを  
感じないほど、無関心になるのが一番  
怖いのです。

## 大切なのは、なにげない会話

最近の夫婦の会話というのは、子ど  
もを媒介にしたものが多く、一人の男  
性、一人の女性としての会話はあまり  
ないような気がします。こうなると子  
どもが独立してしまつた五十代、六十  
代には、一体どんな会話をどのように  
なるのでしょうか。

よく、夫婦がお互いに、あの人はあ  
だからとか、どうせいつてもムダ、





天野 正子(あまの まさこ)  
 広島市生れ  
 千葉大学文学部(行動科学学)教授  
 専門/職業(労働)社会学  
 主な著書/『自立神話を超えて』(有信堂高文社)、『第三期の女性』、『転換期の女性と職業』(以上、学文社)ほか

などと相手を決めつけてしまう人がいますが、相手を既知ではなく、未知なるものとして見るのが、関係をおもしろくしますね。

特に、普段のなげない会話は、夫婦にとって、とても大切な意味を持っています。

例えば、私たち夫婦は、子どもたちから「自分たちは、無視された」と言われるぐらい、よく話をします。

「今日、こんなことがあってね」といったように職場で起きたことや困ったことなど、お互いになんでも話します。それによって、子どもたちも、なぜ私が働いているのか分ってくれたのではないかと思います。

こうした会話から、相手の新しい一

面を知り、夫婦が、家族がだんだんと「いい関係」になっていったら最高ですね。

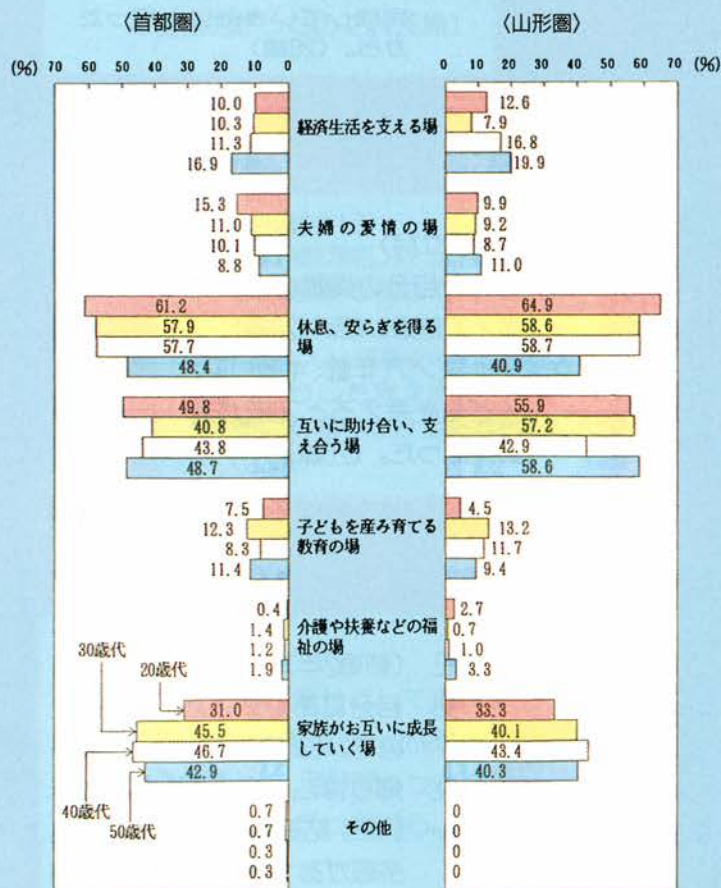
### 広がれ生活圏ネットワーク

また、隣近所の女性たちとの連帯は、共働きの夫婦にとって「命綱」です。私たちは、家庭にいない時間が多いため、留守中の子どもへの目配り、病気のときの子どもへの看護などに大変悩みました。

でも、そんな時、近所の女性たちが自宅で預かってくれたり、私たちの代わりに病院まで連れていってくれたこともあり、大変助かりました。

この経験を通して、私は、近所づきあいや生活圏ネットワークの大切さを

「家庭の役割にはいろいろな面がありますが、あなたが重要だと思うのは、次の中ではどれですか。(2つまで選択可)」



(備考) 経済企画庁「国民生活選好度調査」(平成6年度)により作成。

つくづく知りました。共働きの女性たちも、地域に目を向けてみる必要があります。私も、子どもが小さい時は、夏休みなどに我が家を解放し、近所の子ども達と一緒に遊ばせて遊びました。我が家を地域に向けて開くことにより、近所の親たちとのネットワークの輪が広がり、相互の信頼関係ができてきたのではないかと思います。

### 自分を認め、応援してくれる存在

結婚して、それぞれの経験や友達が二人共有の財産となること、そして一緒にいることにより、生きる世界が広がっていくことにあるのではないかと。ただ、二人で成長し合い、高めあおう

というだけでは長続きしません。疲れてしまいますね。これは、夫婦関係だけにいえることではないと思います。人はいくつになっても、自分に関心をもち、自分を認め、自分を応援してくれている人がいることで、自信をもって人生を歩めるのではないのでしょうか。そういう生きるエネルギーを与えてくれる人が妻であり、夫であるなら素敵ですね。

でも、そつした「いい関係」は、はじめからあるのではない。時間をかけて創造していくものです。